

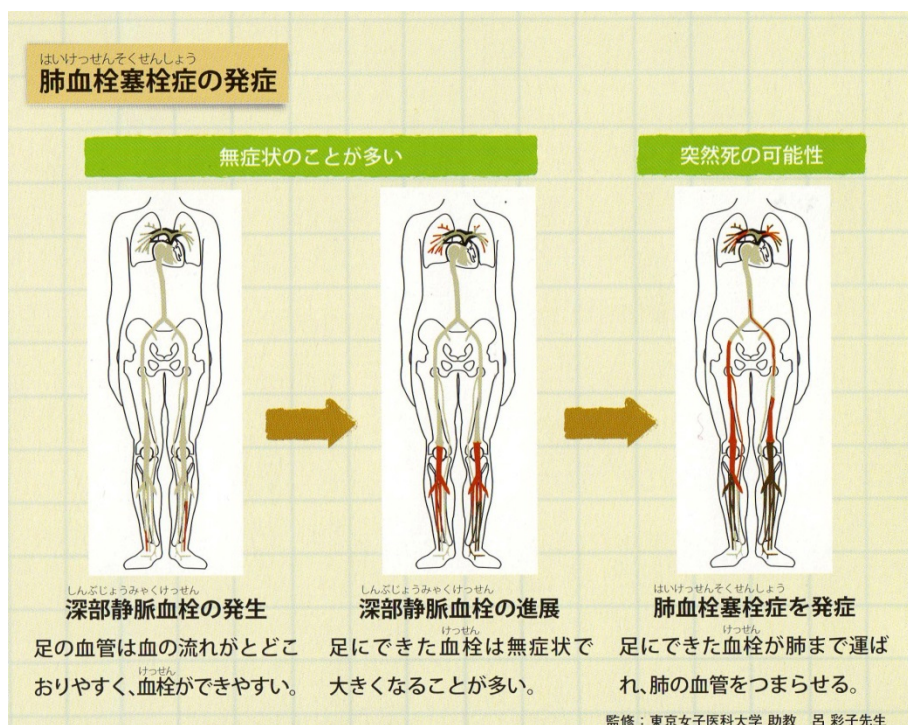
術後の深部静脈血栓症・肺塞栓に対する対策

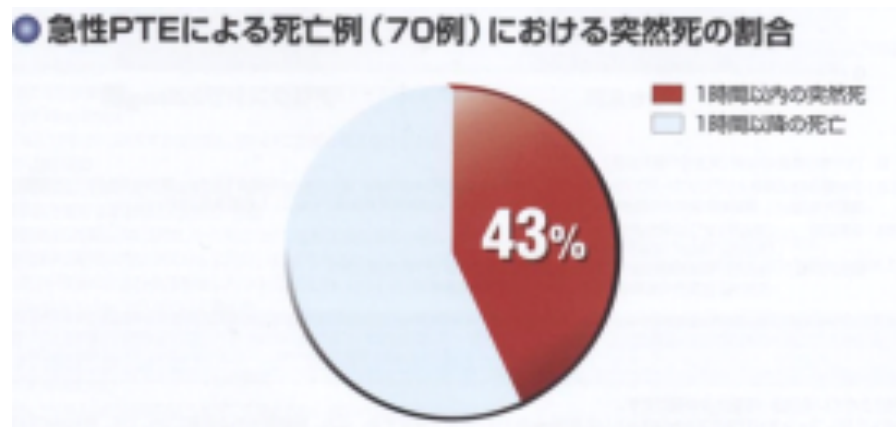
術後の肺塞栓症について（エコノミー症候群）

術後の安静期間に起こる下肢深部静脈血栓症から起こる肺塞栓症は、心肺停止に至る重篤な合併症でエコノミー症候群としても知られています（海外旅行など長時間の飛行機旅行でエコノミークラスに座り足を動かさないでいると血栓が起こりやすくなることからエコノミー症候群として知られるようになりました。）

術後の下肢深部静脈血栓症の最高リスク群である人工関節置換術では、人工股関節置換術（THA）で 27.3%,人工膝関節置換術（TKA）で 50.5%の発生頻度が知られており、その中で肺塞栓症に至る発生頻度は THA で 0.7%,TKA で 1.1%と報告されています。そして、肺塞栓症では自覚症状が起こってから 1 時間以内に 43%が突然死を起こしていると報告されています。よって、予防対策がなにより重要になります。

当科では、現在行われている予防対策（弾性ストッキング着用、フットポンプの使用、足関節の屈伸運動）を行った上、循環器、臨床検査科の協力で手術日手術終了直後、手術 1・3・10 日後に下肢エコー検査を行い下肢深部静脈血栓症の早期発見・早期治療を行っています。この 24 時間対応による循環器との共同診療の結果、現在までに問題になった例は経験していません。





★PTE：肺塞栓症